

## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回 (29 年 1 月判断)	今回 (29 年 4 月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

(注) 29 年 4 月判断は、前回 1 月判断以降、4 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## (判断の要点)

個人消費は百貨店やコンビニエンスストアの販売が堅調なほか、乗用車の新車登録届出台数が好調となるなど緩やかに回復しつつある。生産活動ははん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス等が上昇しているなど回復しており、雇用情勢も着実に改善している。

## 【各項目の判断】

項目	前回 (29 年 1 月判断)	今回 (29 年 4 月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに回復している	回復している	↑
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	→
設備投資	28 年度は前年度を上回る計画となっている	28 年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	28 年度は減益見込みとなっている	28 年度は減益見込みとなっている	→
住宅建設	前年並みとなっている	前年並みとなっている	→
輸出	前年を下回っているものの、足下では増加に転じている	前年を上回っている	↑

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ **個人消費** 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、スーパーで衣料品等の動きに鈍さがみられるなど、全体では前年を下回っているものの、百貨店では化粧品が好調なことに加え、高額品消費に引き続き回復の動きがみられている。

コンビニエンスストア販売額は、カウンター商品や惣菜等の売上増加から、引き続き堅調となっている。

家電販売額は、洗濯機等の白物家電が堅調なことなどから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車、小型車、軽自動車ともに新型車投入効果の継続から、前年を上回っている。

旅行取扱の状況は、国内旅行の動きが鈍くなっているものの、海外旅行では欧州方面などが堅調となっている。

ドラッグストア販売額は、花粉対策商品や訪日外国人への売上が堅調となっていることなどから、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、レジャー用品などが低調となっており、前年を下回っている。

- 化粧品や鞆等の身の回り品が好調。関西の中心部では宝飾品等の高額品も戻ってきており、消費が持ち直してきている印象。免税売上は、客単価が下がっているものの、件数が増加したことから、過去最高を更新している。(百貨店・大企業)
- 2月は昨年が閏年であった影響から営業日が少なかったこともあり、売上が伸び悩んだ。(スーパー・大企業)
- カウンター商品、特に揚げ物が伸びており、主婦層に惣菜としての需要が高まっている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 白物家電の販売が好調。今期は冷蔵庫や洗濯機がよく売れている。(家電量販店・大企業)
- 主力車種のモデルチェンジがプラスに働き好調。想定を大幅に上回り伸びている。(自動車販売店・中小企業)

#### ■ **生産活動** 「回復している」

鉱工業指数(生産)でみると、建設機械等の増加からはん用・生産用・業務用機械が、スマートフォンや自動車向け電子部品等の増加から電子部品・デバイスが上昇し、約8年半ぶりの高水準となるなど、生産活動は回復している。

- 中国向けの建設機械の生産が増加している。中国における建設機械の稼働状態がかなり良くなっており、これまで抑えられていたインフラ投資も増えてきている。(鉄鋼・大企業)
- 半導体等製造装置は、中国向けを中心に設備投資需要が増加しており、現状、国内の生産工場がフル稼働状態で好調を維持している。(電気機械・大企業)
- アジア向けのスマートフォン用電子部品等が堅調に推移しているほか、世界的な自動車の電装化率の高まりにより、自動車電子部品の受注が増加している。(情報通信機械・大企業)

#### ■ **雇用情勢** 「着実に改善している」

有効求人倍率は36か月連続で1倍を超え、42年ぶりの高水準で推移し、なお緩やかに上昇している。新規求人数は増加傾向にあり、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は着実に改善している。

(参考)大阪府の賃金の動き(大阪府「毎月勤労統計調査」)

一般労働者・パートタイム労働者別の現金給与総額及び定期給与は、前年比でみると、月々の振れを伴いつつおおむね横ばいで推移しており、労働時間当たりの賃金は増加している。

- 新規求人は過去最多を更新(平成18年9月以来、10年ぶり)。製造業は、車載機器、白物家電等も好調で、近畿管内全ての府県で求人が増加。また、インバウンド関連ではホテルの建設ラッシュが続く中、調理士や清掃、夜間スタッフなどの求人が増加しており、人手不足感がうかがえる。(公的機関)
- 建設業は恒常的に人手不足。地域限定採用の導入など新卒者の獲得に力を入れているほか、働き方改革にも積極的に取り組んでおり、既存社員の長時間労働の是正や賞与基準の見直しなどを行っている。(建設・大企業)
- 経営環境は厳しいが、販路拡大などの企業努力により黒字を確保しており、利益が出たら従業員へ還元する方針で、毎年ベアを実施している。(輸送用機械・中小企業)

■ **設備投資** 「28年度は前年度を上回る見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年1-3月期

製造業では、情報通信機械などが前年度を下回っているものの、電気機械、鉄鋼などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。非製造業では、建設などが前年度を上回っているものの、運輸・郵便、不動産などが前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

- スマートフォン等向け有機ELディスプレイの量産に向けた投資を実施。 (電気機械・大企業)
- 大型物流施設の建設を実施。 (建設・大企業)

■ **企業収益** 「28年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年1-3月期

製造業では、化学などが増益となるものの、情報通信機械、輸送用機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。非製造業では、建設などが増益となるものの、運輸・郵便、娯楽などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年並みとなっている」

新設住宅着工戸数でみると、貸家などが増加しているものの、分譲マンションが減少していることから、前年並みとなっている。

- 貸家について、相続税対策のニーズは継続しており、受注額も伸びている。 (建設・大企業)
- ホテル等との競合により、土地の仕入れが困難なことからマンション着工戸数は減少。 (建設・大企業)
- マンション販売は、今後の価格高騰や金利上昇を見込んだ消費者による実需が堅調。 (調査会社)

■ **輸出** 「前年を上回っている」

管内通関実績(円ベース)でみると、輸出は、加熱用・冷却用機器などが減少しているものの、アジア向けの半導体等製造装置や科学光学機器などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

■ **企業の景況感**

法人企業景気予測調査(平成29年1~3月期調査)の景況判断BSIでみると現状判断は「下降」超となっている。規模別では、大企業は「上昇」超、中堅企業、中小企業は「下降」超となっている。先行きについて、29年7~9月期には、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **公共事業**

前払金保証請負金額でみると、第4四半期では前年を下回っているものの、年度累計では独立行政法人等や府県などで増加し、前年を上回っている。

■ **金融**

貸出金残高は、前年を上回っている。

■ **消費者物価**

大阪市の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)でみると、教養娯楽などが上昇しているものの、光熱・水道などが下落していることから、前年を下回っている。


■ **企業倒産**

件数は引き続き前年を下回っている。

3. 各府県の総括判断








	前回(29年1月判断)	今回(29年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
大阪府	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢も着実に改善している。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	雇用情勢が着実に改善しているなか、生産活動は回復しており、個人消費は緩やかに持ち直しているなど、全体としては緩やかに回復しつつある。
兵庫県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられるものの、生産活動は緩やかに持ち直しており、雇用情勢は改善しているなど、全体としては持ち直している。
奈良県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動は概ね横ばいで推移するなかで、個人消費は持ち直しており、雇用情勢は改善しているなど、全体としては緩やかに持ち直している。
和歌山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は回復に向けたテンポが緩やかになっており、雇用情勢は緩やかに改善している。
滋賀県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動ははん用・生産用・業務用機械や食料品等で上昇しているなど持ち直しつつある。個人消費は衣料品など一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、雇用情勢も改善している。

## 【総括判断】「大阪経済は、緩やかに回復している」

前 回 (29 年 1 月判断)	今 回 (29 年 4 月判断)	前回 比較	判断の要点
緩やかに回復している	緩やかに回復している		個人消費、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢も着実に改善している。

(注) 29 年 4 月判断は、前回 1 月判断以降、4 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## 【各項目の判断】

項 目	前 回 (29 年 1 月判断)	今 回 (29 年 4 月判断)	前回 比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	
設備投資	28 年度は前年度を上回る計画となっている	28 年度は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	28 年度は減益見込みとなっている	28 年度は減益見込みとなっている	
住宅建設	前年並みとなっている	前年並みとなっている	
輸 出	前年を下回っているものの、足下では増加に転じている	前年を上回っている	

## 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。